と愛着が深まっていくよう、気運を高めて参ります。

また、町制施行50周年の記念式典と記念行事は、秋頃に開催する計画です。町挙げてのお祝い行事と位置づけておりますので、町民の皆様方には何卒ご協力を賜りたく宜しくお願い致します。

■持続可能な医療・福祉体制を

昨年、医師の確保に向けた取り組みを強化するため、医師確保対策検討会を立ち上げました。

海士診療所は開設から20余年、2名の医師により安定した診療体制を維持して参りました。離島でありながらも長年医師問題を考えることなく安心して生活出来ていることは、両先生の献身的な御努力によるところであり、深く感謝申し上げるところです。これまで積み上げてきた島ならではの医療体制をさらに充実させていくため、全力で取り組んで参ります。

■地域資源に磨きをかけ活かす

昨年10月、第10回東京しまね和牛枝肉共励会が東京食肉市場で開催され、隠岐潮風ファーム出品の隠岐牛が優良賞を受賞しました。潮風ファームの出品数は6頭で、内4頭がA-5にランクイン。枝肉単価は県内出品牛の中でも最高値を記録し、高い評価をいただきました。

CAS凍結センターでは、白いかの漁獲好調によりほぼ予定通りの入荷を達成し、販売高も順調に推移していることから漁業者の所得向上にも大きく貢献できております。

昨夏供用開始した日ノ津港の岩牡蠣種苗センターでは、わずか4ヶ月余りで50万個超と、予想以上の生産量を達成しました。種苗の付着状態も良好で順調な滑り出しとなっております。

そのほか崎みかん、本氣米、ぶどう(海士産ワイン)など、地域資源に磨きをかけ、海士町が生き残るために、産業従事者が食べていける産業、環境づくりに全力を挙げて取り組んで参ります。

■観光振興で地域内経済を活発に

地域経済の循環率を高めることが喫緊の課題と位置づけ、観光振興の核である「マリンポートホテル」の大改修事業を「ホテル魅力化プロジェクト」と題して昨年スタートさせました。これを単なる改修事業に止めることなく、世代と組織を超えた人材育成と組織力の強化を推進するために設立した「AMAホールディングス(株)」とも連携して、地域経営に取り組んで参ります。

自然、食、芸能、伝統など、ありとあらゆる海士の資源を最大限に活用し、どのようにしたら「稼ぐ力」を発揮できるのかを、改修するホテルを基軸に関係団体の皆様と知恵を絞り、実践し、地域への誇りと愛着を醸成して参りたいと思います。

■持続可能な教育と地域の魅力化

隠岐島前高校魅力化の取り組みは開始から10年を迎え、島留学など様々な挑戦の結果、生徒数は倍増し、ひとまずは存続の危機から脱した状況です。しかし、島前の中学生の人数は未だ減少し続けており、決して安堵はできません。

今後5年の方向性を定める「隠岐島前高校次期魅力化構想」を策定し、これまで以上に魅力的で持続可能な学校と地域づくりを目指して、取り組みを強化して参ります。

■大学との連携を強化

島根大学と島根県立大学は、地域に根差した大学として、地域の歴史文化を学ぶことや、地域課題解決への取り組みをより一層重視し、活動を強化することになりました。

島大では「じげおこしプロジェクト」が立ち上がり、その第一号として今春学生達が海士の企業で働きながら海士を学ぶ先進的学生プロジェクトが始まります。一方の県立大は、本町との包括的連携協定締結を強く希望し、3月末までに海士町にサテライトオフィスを設置する方向で作業チームが発足しました。

海士町は、こうした島根県内の大学ともまちづくりに挑戦する仲間として積極的に連携し、課題克服に一緒に取り組んで参ります。

本気度が問われる地方創生。「美しい山を守り、水を守り、農地を守り、海を守り、そして伝統を守る。それを誇りとして生活を続けてきた先人達」。ごく当たり前の暮らしの中に地方創生の真髄があるように思えてなりません。

本年も、町民の皆様の大きな期待に応えるために、町職員と一丸となり、共に汗を流して、強い信念と情熱で挑戦を続けて参ります。

「みんなでしゃばる!」を合い言葉に、引き続きご理解とご支援をお願い申し上げ、皆様のご健勝とご多幸を祈念致しまして、年頭のご挨拶と致します。

年頭所感

心ひとつに！みんなでしゃばる島づくり

海士町長
大江和彦

町民の皆様、出郷者の皆様、明けましておめでとうございます。

輝かしい平成31年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。皆様には日頃から町政に対しご支援とご協力を賜りまして、衷心より厚くお礼を申し上げます。

顧みますと、昨年2月の平昌（ピョンチャン）オリンピック・パラリンピックでは日本人選手の活躍で日本中が沸き、感動と勇気をたくさんいただき、希望と期待に満ちたスタートでありました。しかし、その後は日本各地で相次ぐ地震や集中豪雨、そして立て続けに襲来した台風など、全国広範囲で惨憺たる災害に見舞われました。ここに犠牲になられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げ、一刻も早い復旧・復興をお祈り致します。

幸い我が海士町においてはさしたる被害はありませんでしたが、災害に対する備えや防災対策の重要性、そして復旧復興に立ち向かう家族や地域の絆の大切さを改めて再認識させられた一年でありました。

そして、町民の皆様のご理解とご支援により、町長に就任しまして早7ヶ月が経ちました。町政の経営指針に掲げたスローガン「自立・挑戦・交流・継承・団結　～心ひとつに！みんなでしゃばる島づくり～」を実践していくために、世代や立場を超えて、寄り合い、助け合い、意見を交わしながら「楽しく幸せに生きる」確かな未来を、町民の皆様と共に創り上げて参りたいと決意を新たにしています。

■町制施行50周年　みんなで祝いましょう

海士町は、本年元旦をもって、町制施行50周年という歴史に輝く節目の新年を迎えました。明治37年8ケ村が合併し、一郡一村の村制が施行されてから65年目の昭和44年1月1日に町制を施行。爾来（じらい）半世紀、激動する社会の幾多の困難を乗り越えてきました。その原点は、昭和45年元旦に制定された**海士町町民憲章**にあるのではないでしょうか。改めて目を通しますと、先人達の郷土を愛する熱い思いや未来への希望と勇気に満ち溢れた力強い信条がひしひしと伝わって参ります。まさに海士町町民憲章は今日の海士町の躍進と繁栄の礎（いしずえ）だと確信できると思います。

私は、町制施行50周年を迎えるにあたって、改めて町民憲章の理念を継承する意義を町民の皆様と共有したいと思っています。そこで本年は、本町で行われる行事、例えば綱引大会やキンニャモニャ祭り、出郷者の集い、産業文化祭、また本年記念すべき創建80周年を迎える隠岐神社の例大祭等に関しては、町制施行50周年と銘打ち、郷土への誇り

海士町町民憲章

一、豊かな史蹟と自然の風物を愛し、美しいまちにしましょう

一、時代にふさわしい生活基盤を整え、豊かなまちにしましょう

一、お互に人の立場を尊重し、よい習慣を養い、住みよいまちにしましょう

一、青少年の夢と希望を育て、栄えるまちにしましょう

(↑)町民憲章を刻んだ石碑

団体代表よりご挨拶

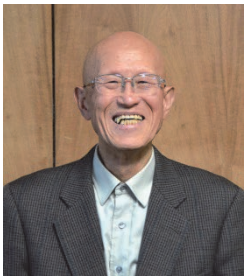
＊敬称略

関東海士後鳥羽会
会長　鶴谷 恒

海士町の皆様、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、皆様には関東海士後鳥羽会に対しまして多大なるご支援・ご協力を頂き、心よりお礼申し上げます。

その昔、希望に燃えて出郷してきた先輩諸氏が培ってきた、関東海士後鳥羽会にも高齢化の波が押し寄せていますが、新しい時代に向けて、会員の増加・親睦を図り、故郷海士町との絆を大切にして参る所存でございます。より一層のご支援・ご協力をお願い致しますとともに、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

海士町老人クラブ連合会
会長　片桐 憲一



年の初めにあたり、町民の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

海士町老人クラブ連合会は、11地区に老人会があり、４００数名の会員がいます。老連では、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるように、今年も会員の視点に立って魅力ある老連づくりを目指して頑張ってまいります。

老人が元気であれば地域も元気になります！

区長会
会長　杵築 憲治

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、海士後鳥羽会という貴重な場へ出席する機会を得ることができました。ふるさとを愛する出郷者の皆様の熱い思いを改めて感じることができ、とてもうれしく思いました。私達が生まれ育った海士町が更なる発展へとつながるよう、皆で知恵をしぼり地域を盛り立てていきたいと思いますので、より一層のご協力をお願いいたします。

本年が皆様にとって幸多い一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

隠岐國商工会
事務局長　佐藤 賢一

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年は、相次ぐ台風などの自然災害の影響で、島内外一同楽しみにしていたキンニャモニャ祭りが中止となり、また全国的にも物流や観光に深刻な影響のあった1年でした。

そして日本経済も海外の貿易戦争の影響、消費税引き上げと先行きは不透明な中ではありますが、当商工会は役職員・会員・関係機関と団結し、干支のイノシシの如くまっしぐらに地域活性化に取り組んで参ります。

本年もご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

海士町消防団
団長　楠見 節雄

輝かしい新春を迎え、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

町民の皆様には、日頃から消防・防災業務にご協力いただき、心から感謝申し上げます。

昨年は住宅火災が2件発生し、火災により財産が失われてしまう結果となってしまいました。残念ではありましたが、引き続き気を引き締めて活動に当たりたい所存です。

我々消防団は、地域住民の生命・財産を守るため、誇りと自信をもって一致団結し、あらゆる防災活動に尽くし、住民の信頼と期待に応えられる活力ある消防団を目指して努力して参ります。

火災のない住みよい町づくりに一層の努力を続けていく決意でありますので、町民の皆様も、改めて今後より一層のご協力を頂きますようお願いを申し上げます。

最後に、町民の皆様方のご健康とご多幸を祈念申し上げ、新年の御挨拶と致します。

人が集う、活気ある町

教育長　平木　千秋

町民の皆様、平成最後の新年明けましておめでとうございます。昨年は教育行政に対し、多大なるご支援ご協力を戴き誠に有難うございます。今年もよろしくお願いをいたします。

さて、昨年も教育委員会の大きな活動として、町の各種イベントがありました。昨年の海士町産業文化祭では、たくさんの皆様が参集され、賑わいを取り戻しています。島外の参加者からは、『こんなに幅広く老若男女が集まるイベントはあまり他にはない』といった声も聞きました。少子高齢化の環境にあって活気があるのはうれしい事です。また、各地区対抗であるソフトボール大会や綱引き大会などを大いに楽しみ、友好を深めている事も海士の活力です。交流施設のあまマーレのイベントも季節感が漂う内容が豊富ですので、皆様是非ご参加ください。今年も工夫をこらして皆が集ういっそう楽しいイベントにしていきたいと思います。

学校教育活動では、昨年、両小学校の『子ども議会』が、島根県の優れた教育活動として表彰を受けました。14年続く活動で、海士町への前向きな提案を評価していただきました。また、親子島留学制度は3年目を迎え、2家族の受け入れを計画しています。受け入れ地区の皆さんのご理解と温かいご支援に感謝しています。この活動を通して学校や学級が活性化され、地域も元気が出る活動になればと願っています。

社会教育活動では、ふるさとの良さを知る活動を中心に行っています。「ふるさと再発見ツアー」や「子どもダッシュ村」などを通してふるさとの良さを再確認して愛郷心を育み、持続可能な島づくりの人材育成へと繋げていきます。中央図書館では、皆様に親しまれる図書館を目指し、読み聞かせや本の宅配、学校図書館の運営などを行っています。中央図書館の窓から見えるすばらしい田園風景を眺めながら、至福の時を過ごしていただければと思います。

教育委員会では、教育の魅力化推進にあたり1月から『じげのお茶会』を計画し、目指す子ども像についてじげの声を聞きたいと考えています。第1回目は宇受賀におじゃまします。学校、地域、教育委員会が一体となる教育活動にしていきたいと思っておりますので、重ねてご支援ご協力をお願いします。

【来月の行事予定】

■立　春　式　　2月　2日(土)

■子ども議会　2月 15日(金)

今年も子どもたちの応援をよろしくお願いします！